

世にないものを提案していく

株式会社恭和

所在地 静岡市駿河区国吉田6-8-64
代表者名 太田 則明
創業 平成4年2月
資本金 50,000千円
従業員数 94人
主要製品 車載用製品等の開発・設計・製造、スマートフォン用アプリケーションの開発
電話 054-265-1783
FAX 054-265-1928
URL <http://www.kywo.co.jp>



企画から製造までを担う技術

株式会社恭和は、平成4年に創業し、以来、車載用製品の設計から製品解析、スマートフォン用アプリケーションの開発に至るまで、幅広い分野において事業を展開してきた。

同社の強みは、企画、デザイン、開発、設計、試作、製造を一貫して行っている点にある。企画にお

いては、量産条件を踏まえた上で実現可能性の高いデザインと機能を提案し、製品設計においては、製品の立ち上げまでを経験している社員が主として担当し、適時シミュレーションを行うことで顧客の品質要求に的確に応えることを可能にした。また、試作・製造においては、樹脂から金属に至るまでの様々な加工を手掛けている。

製造過程における段階のひとつひとつに高い技術力を持つ社員を充て、同社の中で企画から製造までを完結させる。これが、より高品質で且つ顧客の要望に沿った製品を生み出す秘訣である。



▲Smartphone IP Camera Wireless
(スマートフォンから自宅の様子をチェックできる)

3Dプリンターを活用した製品開発

近年、マスコミ等で取り上げられる機会が増えている3Dプリンター。同社では3年程前より製品開発に導入している。

これまでは、顧客と担当者が図面を見ながら打ち合わせを行うという手法が一般的であったが、図面では開発物を立体的に捉える事が出来ないため、顧客の要望を正確に把握することが困難であった。ここに3Dプリンターを導入すると、打ち合わせの様子は劇変する。完成形が立体となって手元にあることで、顧客は自分のイメージに沿ったものであるかを直に確かめることが出来る上、ここをこうして欲しいなどの要望を正確に企業に伝えることができる。企業にとっても、より顧客のニーズを捉えやすくなり、実際に製品を作った後のトラブルも減少する。



▲太田代表取締役と3Dプリンター

同社では自社で3Dプリンターを保有しているため、費用も手間もかけずに3Dモデルを製作することができる。製品開発においてもはや欠かすことのできない3Dプリンターをいち早く投入した同社では、個人を対象として、フィギュアなどの製作を行う事業を始めており、今後も3Dプリンターを用いた新たなビジネス展開を模索していく。

技術を組み合わせた新たな提案

同社では、蓄積された技術を用いて、新たなライフスタイルの提案に取り組んでいる。そのひとつが、Bluetoothを用いた、スマートフォンアプリと車載機器の連携システムである。同社が車載用製品の設計とスマートフォン用アプリの開発を行っていることは先に述べた通りであるが、その両方の技術を組み合わせたのがこの連携システムである。



▲車とスマートフォンの相互連携システム

このシステムは、車とスマートフォンを双方向に連携させることで、例えばハンドルのボタンからナビを操作したり、音楽を聴いたりすることができ、またスマートフォンから車のサイドミラーを閉じたり、ライトを点灯させたまま離れるとスマートフォンが警告してくれるものである。

このようなシステムを可能にしたのも、同社が幅広い分野において企画から製造までを一貫して行っていたからである。一見すると関連のない技術であっても、それらを組み合わせることで新たな技術となって生まれる。太田社長の、「世にないものを考え、作って、提案する」という理念も、様々な技術を持つ同社だからこそ現実味のある言葉として受け止められた。今後も同社が提案する新たな技術に期待したい。

(文責：地域産業課)